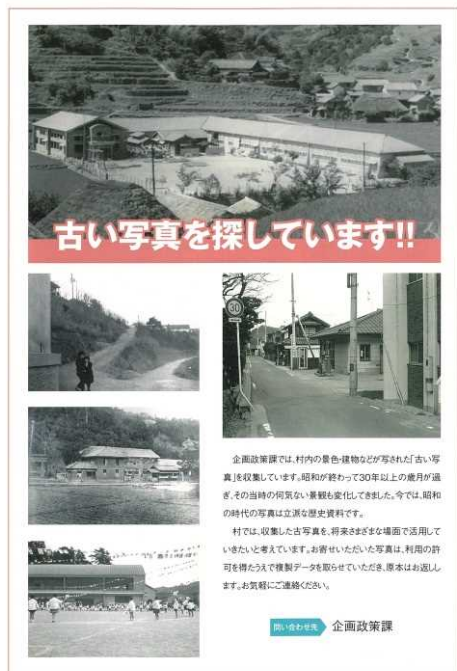


地図と写真でみる 佐那河内の今昔

石尾 和仁
平井 松午

『広報佐那河内』で古写真収集を呼びかけ



古い写真を探しています!!

企画政策課では、村内の景色・建物などが写された「古い写真」を収集しています。昭和が終わって30年以上の歳月が過ぎ、その当時の何気ない景観も変化してきました。今では、昭和時代の写真は立派な歴史資料です。

村では、収集した古写真を、将来さまざまな場面で活用していきたいと考えています。お寄せいただいた写真は、利用の許可を得たうえで複製データを取らせていただきます。原本はお返しします。お気軽にご連絡ください。

問い合わせ先 企画政策課

2023年5月号



ご家庭に「古文書」などが眠っていませんか?

筆と墨を用いて、いわゆる「崩し字」で書かれた古い書き付け（古文書）や、浄瑠璃本、大正期や昭和前期に使用されていた教科書、あるいは村内商店の引札などが、みなさんのご家庭に眠っていませんか。これらの資料の中には村の歴史がうかがえる貴重な情報が含まれているものもあります。

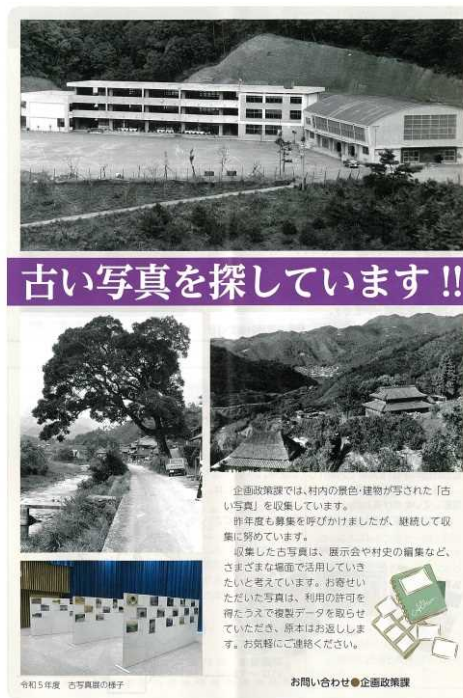
もし、このような資料をお持ちでしたら、企画政策課までお知らせください。県立文書館と連携して「複製作業」をするとともに、写真撮影を含めた調査を実施します。その後、資料は返却します。

(大宮神社の由緒) (横付帳)

(浄瑠璃本) (米田菓子店の引札)

問い合わせ先 / 企画政策課

2023年6月号



古い写真を探しています!!

企画政策課では、村内の景色・建物などが写された「古い写真」を収集しています。

昨年度も募集を呼びかけましたが、継続して収集に努めています。

収集した古写真は、展示会や村史の編集など、さまざまな場面で活用していきたいと考えています。お寄せいただいた写真は、利用の許可を得たうえで複製データを取らせていただきます。原本はお返しします。お気軽にご連絡ください。

令和5年度 古写真館の様子

お問い合わせ ● 企画政策課

2024年10月号



ご家庭に「古文書」などが眠っていませんか?

筆と墨を用いて、いわゆる「崩し字」で書かれた古い書き付け（古文書）や、浄瑠璃本、大正期や昭和前期に使用されていた教科書、あるいは村内商店の引札などが、みなさんのご家庭に眠っていませんか。これらの資料の中には村の歴史がうかがえる貴重な情報が含まれているものもあります。

もし、このような資料をお持ちでしたら、企画政策課までお知らせください。県立文書館と連携して「複製作業」をするとともに、写真撮影を含めた調査を実施します。その後、資料は返却します。

浄瑠璃本

米田菓子店の引札

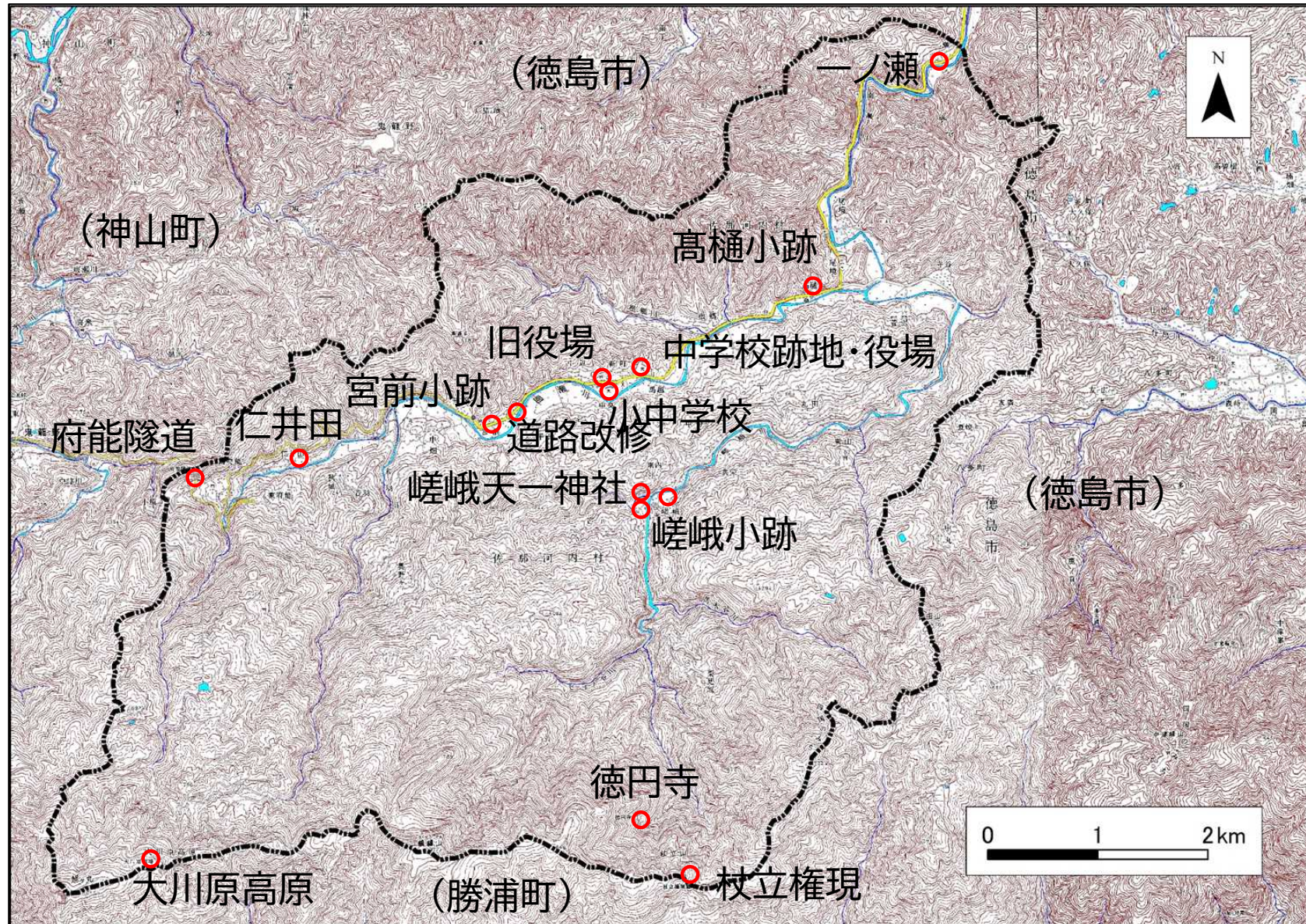
名東郡中野生人并談話会発行の歴史資料

問い合わせ ● 企画政策課

2024年11月号

報告で紹介する主な地点

1/25000地形図「石井」「阿波三溪」「立江」「徳島」図幅を接合





一ノ瀬 撮影時期不明



一ノ瀬バス停付近 2024年3月15日撮影

一ノ瀬バス停前(一ノ瀬 いちのせ)

一ノ瀬から中辺(なかへん)・府能(ふのう)を經由して神山町に通じる幹線道路が明治21～23年(1888～90)に開通し、大正6～12年(1917～23)の改良事業によって県道となり、昭和57年(1972)4月に徳島市～高知県中村市を結ぶ国道439号に昇格した。国道439号は現在、佐那河内村内では国道438号と重複している。佐那河内村にバスが運行したのは大正12年のことで、地元の博愛自動車が井開(いがい)～徳島間を1日3往復した。令和6年(2024)年3月時点では徳島バスが平日1日6便運航している。また現在は、令和8年3月の開通を目指して一ノ瀬トンネル(仮称)の建設が進んでいる。



高樋小学校 大正3年(1914)



高樋小学校跡地 2024年3月15日撮影



高樋小学校 撮影時期不明



跡地に立つ高樋公民館(南側) 2024年3月15日撮影

高樋小学校(高樋 たかつい) 明治14年(1881)7月10日に「名東郡佐那河内学区公立下佐那河内村小学校」(本校)として開校、他に分校が3校(いずれも寺子屋などを再利用)。同25年6月に「佐那河内村立高樋小学校」と改称。明治27年4月に**道路北側**に校舎が新築され、昭和26年3月に**道路南側**に改築移転。佐那河内小学校への統合により昭和44年(1969)3月31日に閉校し、跡地は佐那河内村立公民館高樋分館となっている。



中嵯峨の観音庵
撮影時期不明



嵯峨天一神社南側の草創期の校舎
撮影時期不詳



嵯峨小学校 国民健康保険実
施開始記念 昭和4年（1929）

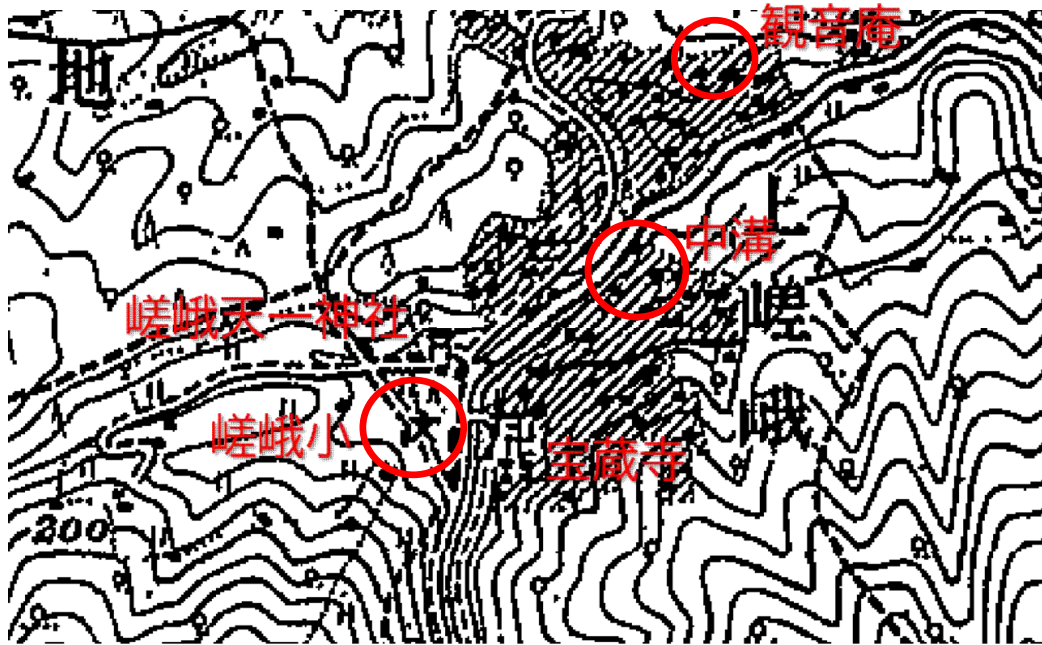


中嵯峨の観音庵
2024年4月撮影



嵯峨小学校跡地
奥に嵯峨天一神社
2024年3月8日撮影

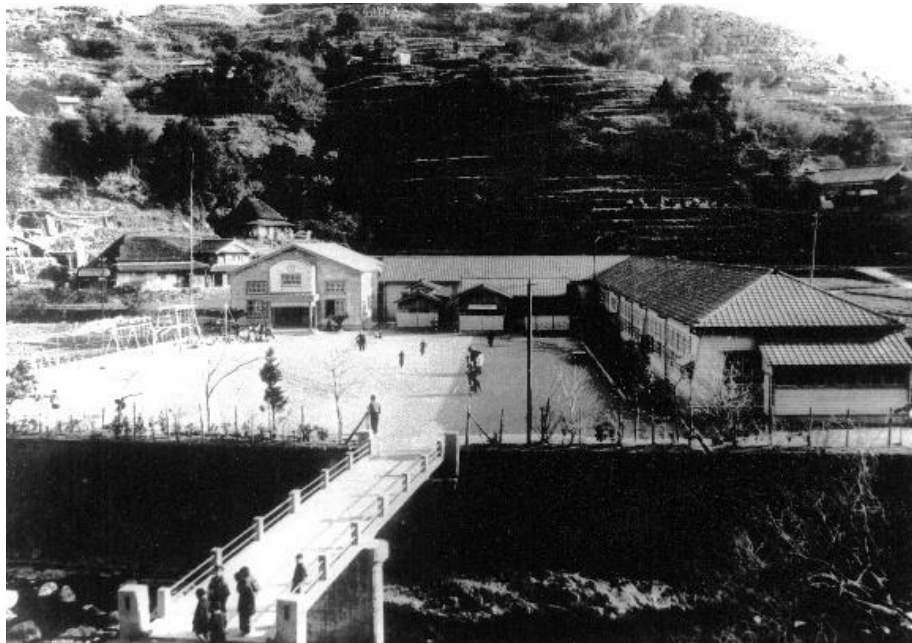
嵯峨小学校（嵯峨 さが） 明治14年（1881）7月に「名東郡佐那河内学区公立下佐那河内村校中嵯峨分校」として中嵯峨の観音庵に開校。同19年4月に小学校令により分校が廃止となり、嵯峨中溝に私立通暁学校が開校されるが、同25年8月の小学校令の改正により、同校を「佐那河内村立嵯峨尋常小学校」として復活。明治27年11月に天一神社南側の字宮本に新校舎が完成。昭和30年（1955）1月に字中溝に移転。佐那河内小学校への統合にともない、昭和44年3月31日に閉校。跡地は現在、日本料理店敷地などになっている。



昭和8年(1933)測量 1/5万地形図「和食」
(106-9-2、1936年発行)



昭和38年(1963)撮影空中写真
(国土地理院MSI632X-C1-1)



中溝の嵯峨小学校 昭和40年(1965)頃



旧嵯峨小学校跡地 2024年3月8日撮影



茅葺き屋根の徳円寺 昭和12年（1937）

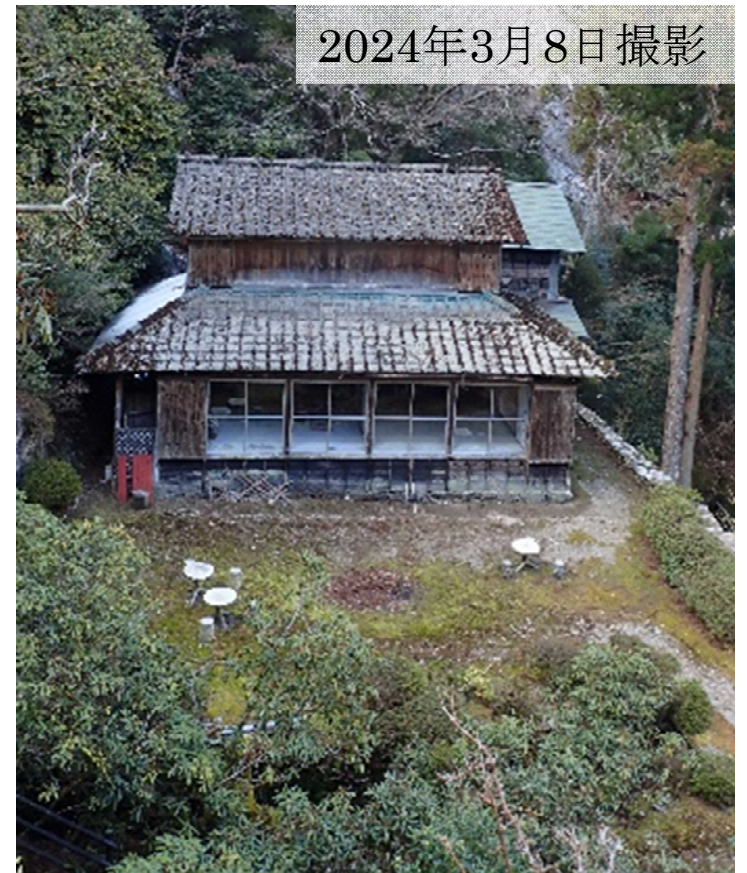


徳円寺と
シャクナゲ
佐那河内村広報
（昭55.5）

徳円寺（とくえんじ） 浄土宗 浄智寺末。徳円上人により文政7年（1824）11月26日に開基。本堂を明治13年（1880）11月に再建。寺庭にある壁ヶ嶽（かべがだけ）は、色鮮かに咲くしゃくなげ（石楠花）の名所で、毎年4月下旬から5月上旬が見頃。昭和48年

（1973）に林道を通した際に、駐車場・トイレなどを整備。佐那河内村HP参照。

<https://www.vill.sanagochi.lg.jp/docs/2012120400064/>





昭和8年(1933)測量
1/5万地形図「和食」
(106-9-2、1936年発行)

杖立権現(つえたてごんげん) 杖立権現越は、佐那河内村と勝浦町坂本を結ぶ標高655mの峠道。峠道の北斜面に権現社が祀られている。昭和46年(1971)に大川原高原に抜ける林道が整備されており、「四国のみち」にも選定されている。



杖立権現 撮影時期不明



杖立権現 2024年3月8日撮影



徳島農業高校
佐那河内分校

旧・佐那河内中学校
昭和36年（1961）



旧・佐那河内中学校 昭和38年（1963）
中学校の卒業アルバムより



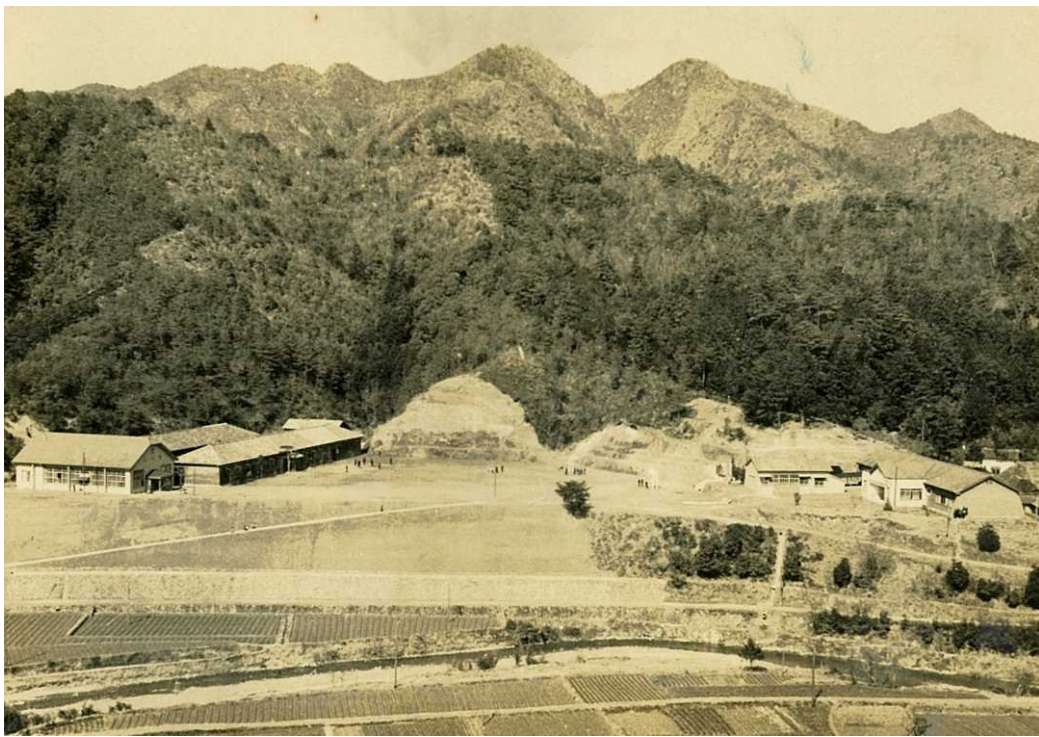
旧・佐那河内中学校
平成8年（1996）6月

佐那河内中学校

昭和22年（1947）5月の佐那河内中学校の開校（当初は村内の3小学校を利用）にともない、下字西のハナ26番地の山林を開発・整地し、翌年8月に校舎を建設。その後も校地の拡張が行われ、昭和39～40年度にかけて鉄筋コンクリート製の新校舎が竣工。

昭和23年4月25日には、隣接して徳島農業高等学校佐那河内分校（農業科・家庭技芸科）が開校したが、同56年に閉校。平成23年

（2011）4月に中学校は中辺地区に移転し、跡地には令和4年（2022）3月22日に村役場が開庁した。



記念碑前にて
昭和30年2月11日

昭和30年代後半
(卒業アルバムより)



佐那河内村役場

令和4年（2022）3月22日新築移転



佐那河内村役場 2024年10月2日撮影



中学生の登校風景

「広報佐那河内」

平成8年（1996）12月号



現在は歩行者専用道路

2024年3月8日撮影



舗装工事
(昭和40年代半ば)

左:昭和40年頃
下:平成13年





佐那河内小学校 昭和55年（1980）
空中写真のA地点は同一地点



令和5年（2023）3月撮影空中写真
佐那河内村役場提供

佐那河内小学校（中辺 なかへん）

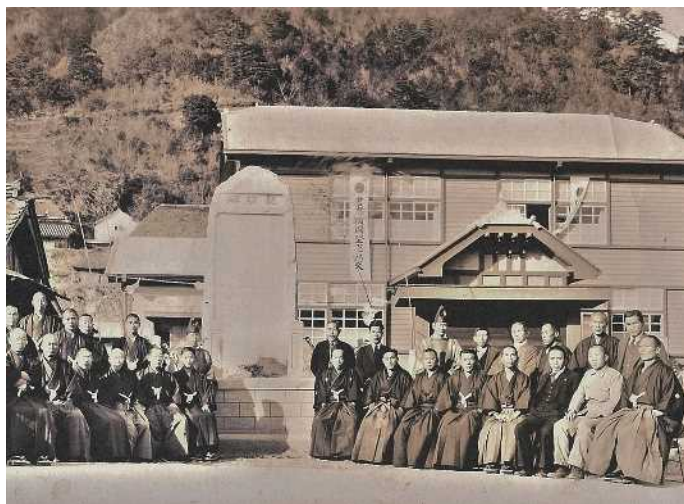
高樋・嵯峨・宮前の3小学校を統合して、昭和44年（1969）4月1日に現在地に開校。昭和44～45年度に校舎が竣工。平成18（2006）年度より小中一貫教育パイオニア事業実践校となり、平成23年4月1日には、佐那河内小中学校一体型の新校舎の利用が開始された。



佐那河内小中学校 2024年3月8日撮影

旧・佐那河内村役場庁舎(中辺)

明治22年(1889)10月1日の町村制施行によりに佐那河内村が発足。同31年11月に廃止となった佐那河内村高等小学校の校舎を役場庁舎とするまで、役場は個人宅を転々と移動した。



昭和12年(1937)竣工



昭和43年(1968)5月竣工 2024年3月8日撮影



昭和41年(1966)頃の役場周辺

「広報佐那河内」平成14年(2002)3月号





宮前小学校 明治45年(1912)



宮前小学校 昭和11年(1936)



明治40年(1907)測図 1/5万地形図「横瀬」
(106-9-1、1910年発行)



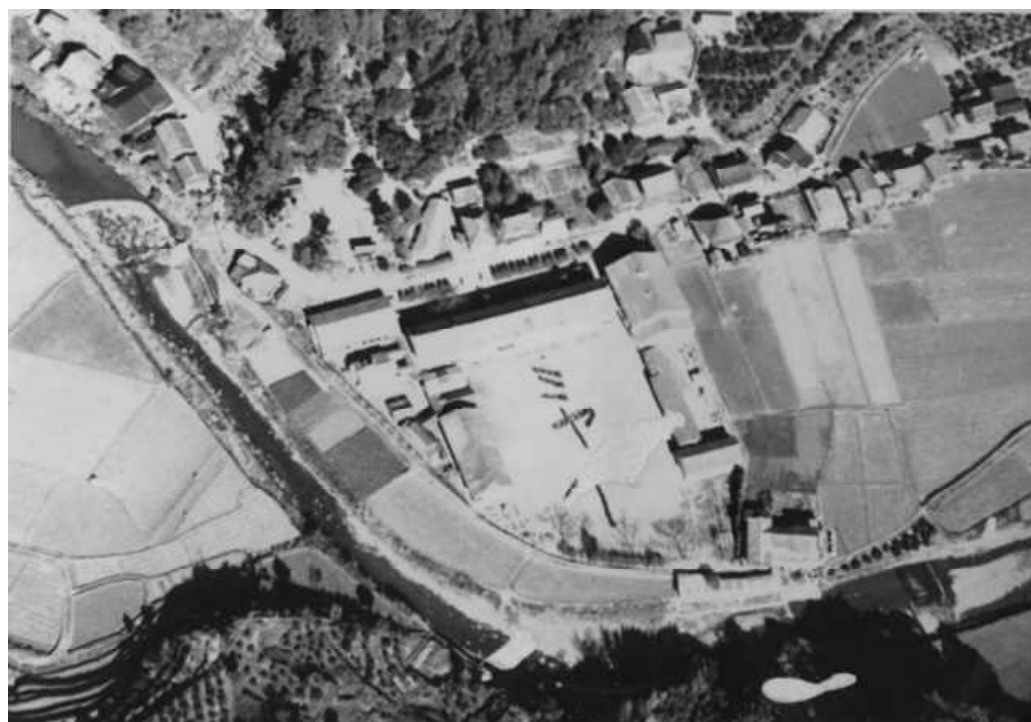
朝宮神社の東側 国道439号 2024年3月8日撮影
小学校跡地には青年会館が建てられていた

宮前小学校（朝宮 あさみや）

明治15年（1882）1月に「上佐那河内村小学校」を設置（寺子屋の再利用）。同23年10月「下佐那河内尋常小学校上佐那河内分校」を経て、同25年6月「佐那河内村立宮前小学校」となる。この間、明治23年12月に下字宮前に校舎を新築（朝宮神社の東側）、昭和12年（1937）12月に神社南側の新校舎に移転している。佐那河内小学校への統合により昭和44年（1969）3月31日に閉校し、跡地は現在、建設会社敷地などになっている。



朝宮神社 2024年3月8日撮影



旧・宮前小学校昭和30年代
徳島県立文書館所蔵



朝宮付近 2023年3月撮影空中写真
佐那河内村役場提供



中辺地区の国道改良工事

「広報佐那河内」昭和58年（1983）12月号



中辺地区 2024年3月8日撮影

道路改修 昭和57年（1982）4月に県道から昇格した国道439号は、その後道路改修工事が進められた。中辺周辺では昭和57年年以降、農地の圃場整備事業も進捗している。



祭りのかけこし 撮影時期不明



仁井田地区

2024年3月8日撮影
右手は園瀬川



思い出の風景





府能隧道 大正11年（1922）
上部には「府能嶺隧道」の銘板

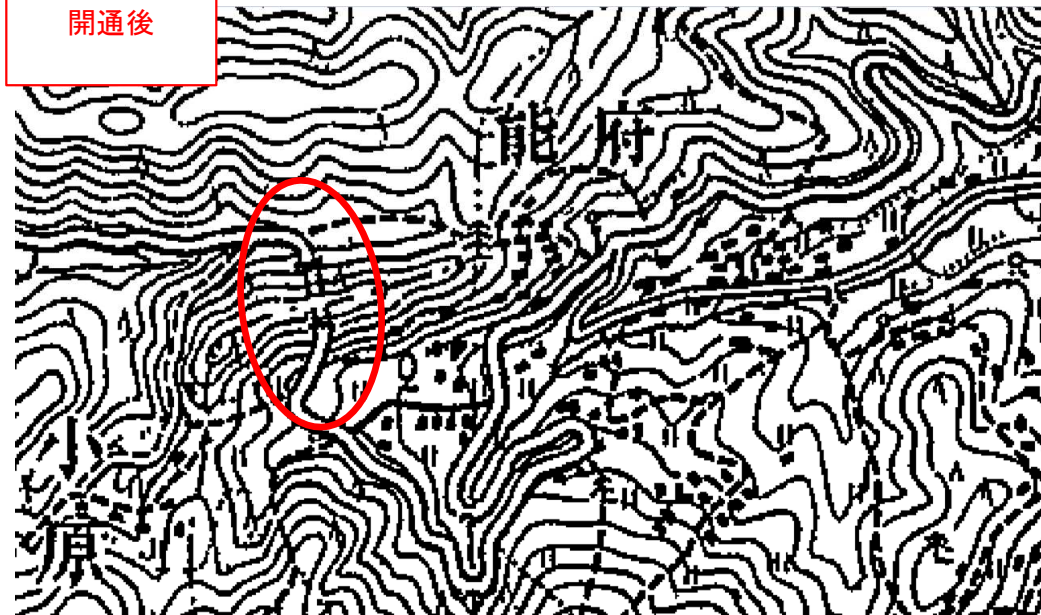
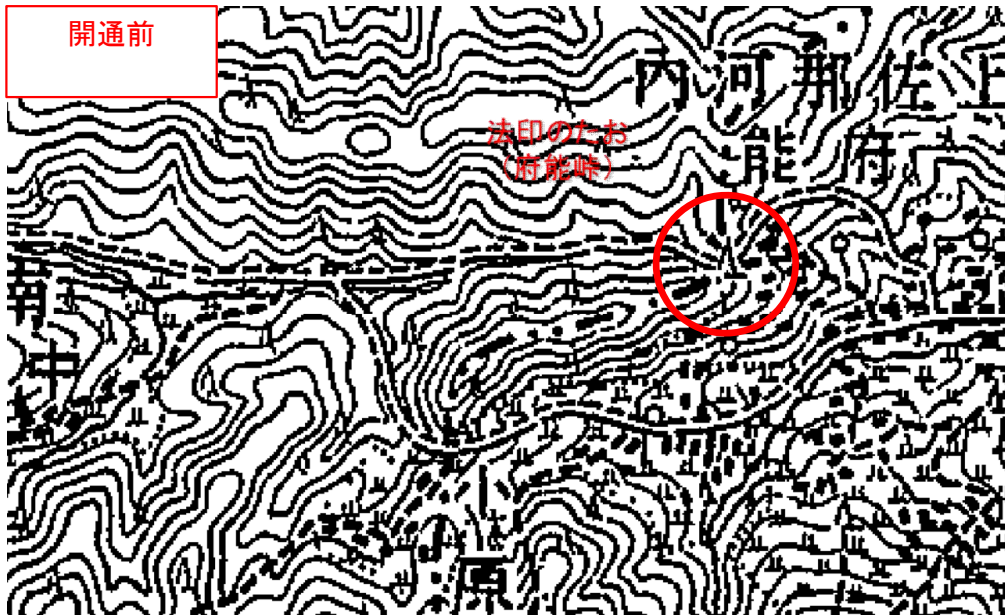


府能隧道 昭和40年（1965）
神山町鬼籠野側

府能隧道（府能 ふのう） 佐那河内村府能と神山町鬼籠野（おろの）を結ぶ。県道建設に伴い、6年の歳月を要して1923（大正12）年に完成。長さ180m、高さ4.4m、有効幅員3.7m。鶴嘴（つるはし）と石切り鑿（のみ）を使って開鑿された。煉瓦積みと飾り石など丁寧な意匠が施された現役の隧道であることから、土木学会により貴重な土木遺産として「推奨土木遺産」として平成29（2017）年度に認定されている。



府能隧道 2024年3月8日撮影 府能側



明治40年（1907）測図 1/5万地形図「横瀬」
（106-9-1）開通前は峠道が利用されていた

昭和8年（1933）測量 1/5万地形図「驚敷」
（106-9-2）



西府能 昭和30年代

2024年3月8日撮影



府能隧道と新府能トンネル

平成19年（2007）12月26日供用開始。神山町鬼籠野地区を結ぶ。Google mapより。



西府能から桜久保方面を望む 昭和30年代



西府能から桜久保方面を望む 2024年3月8日撮影



西府能地区の棚田景観 昭和37年（1962） 佐那河内の棚田米は徳島藩主にも献上されたという



大川原高原 昭和50年代



大川原高原の風車群 2024年3月8日撮影



大河原牧場と風力発電 大川原牧場は昭和36～37年（1961～62）に、放牧場として村が大川原高原に開発。標高800～1000m。ピーク時の昭和45年頃には乳牛約70頭を放牧、面積約70ha。高冷地農業にも取り組まれた。大川原高原から吉野川や淡路島が遠望できる。大川原高原では平成21年（2009）2月より風力発電が開始され、2024年現在15基の発電機が稼働し、19.5MWを発電している。



大川原青年の家(昭和40年代)



昭和56年



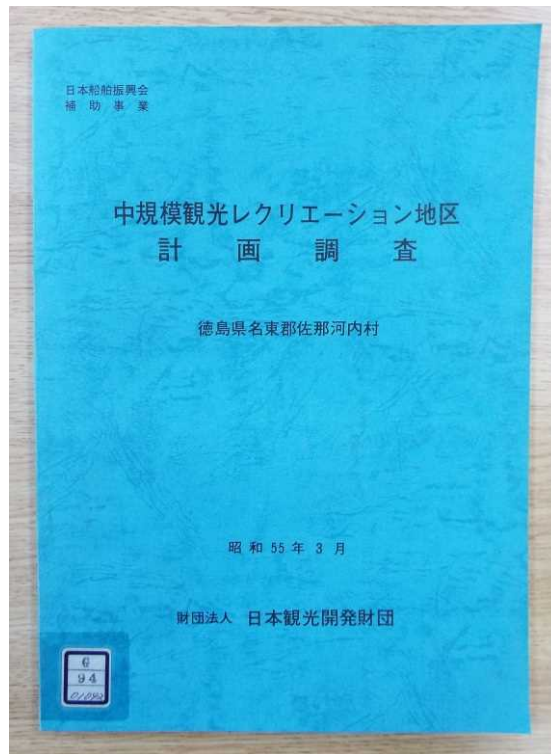
平成初期



大川原高原での野菜づくり(昭和46年)



ハイジ牧場オープン
(平成9年7月20日)



芝生広場(平成11年5月)

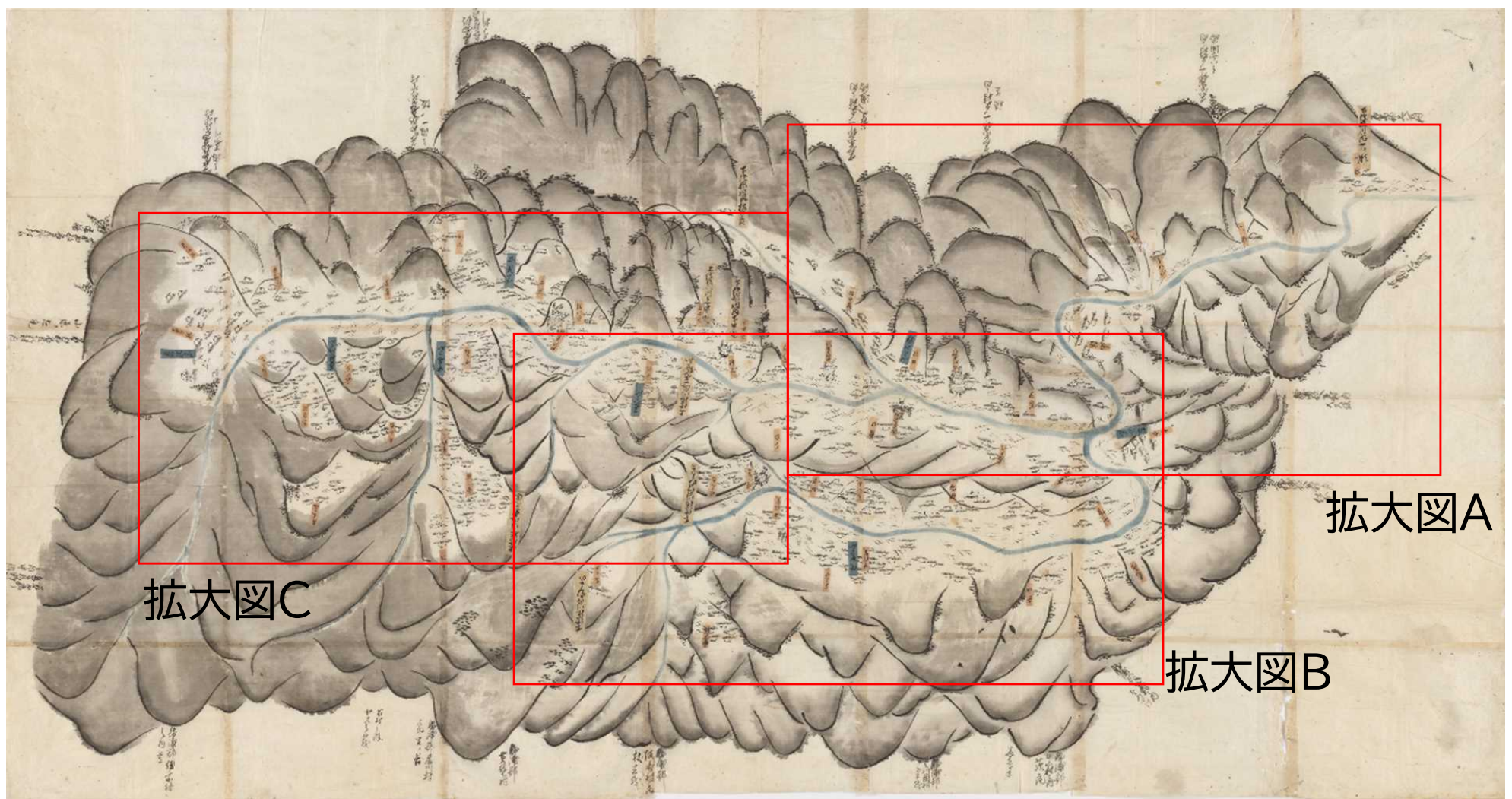
中規模観光レクリエーション地区計画調査

上下佐那川内村図 (長尾家文書)



村境の峠道の表示

- 「名東郡一ノ宮村之内ウハ山通路」
- 「名東郡一ノ宮村之内福正」
- 「名東郡一ノ宮村之内谷又へ通路」
- 「名西郡鬼籠野村之内弓折」
- 「名西郡鬼籠野村之内一ノ坂」
- 「名西郡鬼籠野村之内黒川」
- 「名西郡鬼籠野村江通路」
- 「名西郡鬼籠野村之内小原之た尾」
- 「名西郡鬼籠野村之内中内」
- 「勝浦郡傍示村之内鶯」
- 「右村之内ヤスミ石越」
- 「勝浦郡藤川村之内関ノ谷」
- 「勝浦郡黄檗村」
- 「勝浦郡坂本村之内杖立越」
- 「勝浦郡与川内村ヨシガ平越」
- 「勝浦郡中山村之内茨尾」
- 「勝浦郡八多村之内なつやけ」
- 「勝浦郡八多村之内仕出」
- 「勝浦郡八多村之内大久保」



縦100.0cm ×横189.6cm。絵図を納めた袋の表には「文化貳丑年閏八月十日上下佐那川内村絵図」、裏に「ひかへ長尾嘉左衛門」と書かれていることから、文化2年（1805）に作成され、藩に提出された正図の控えである。この時期、御国図御用の命をうけた測量家・岡崎三蔵が領内を巡って測量をしていた時期であり、阿波国図作成に関わって描かれた可能性もある（「広報佐那河内」令和6年6月・第615号）。絵図には青色付紙で「名（みょう）」地名、鳥の子色付紙で小地名や神社名が書き込まれているほか、絵図の周辺には「名東郡上八万村」「勝浦郡坂本村之内 杖立（つえたて）越」「名西郡鬼籠野（おろの）村江道路」などと隣村や峠道の情報が記載されている。

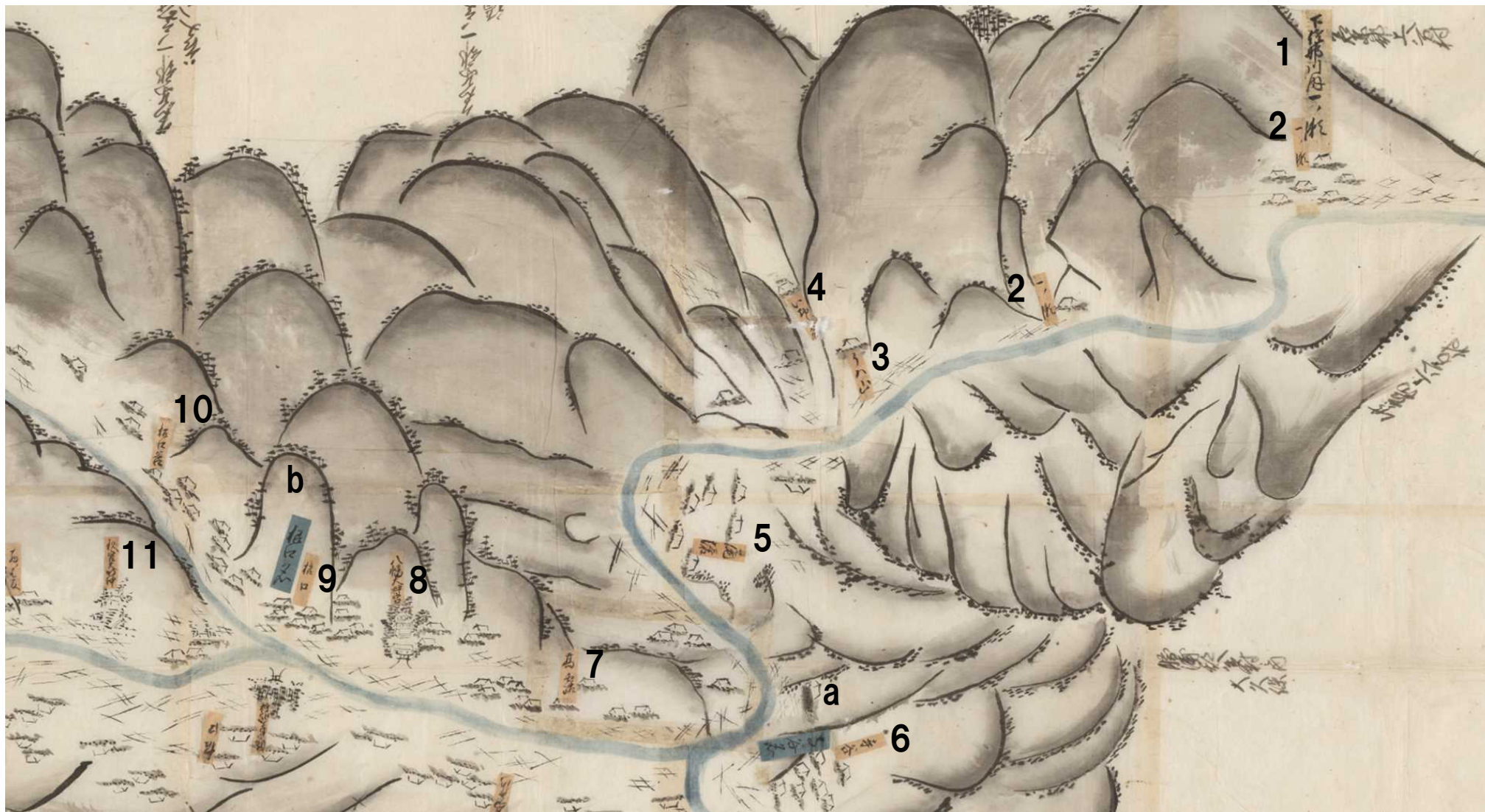


図2_1 「上下佐那川内村絵図」拡大図A

a 寺谷名 b 根郷名 1 下佐那川内一ノ瀬 2 一ノ瀬 3 うハ山 4 いおり谷 5 尾境 6 寺谷 7 高露 (高樋) 8 八幡大神宮 9 根郷 10 根郷谷 11 杉宮大明神

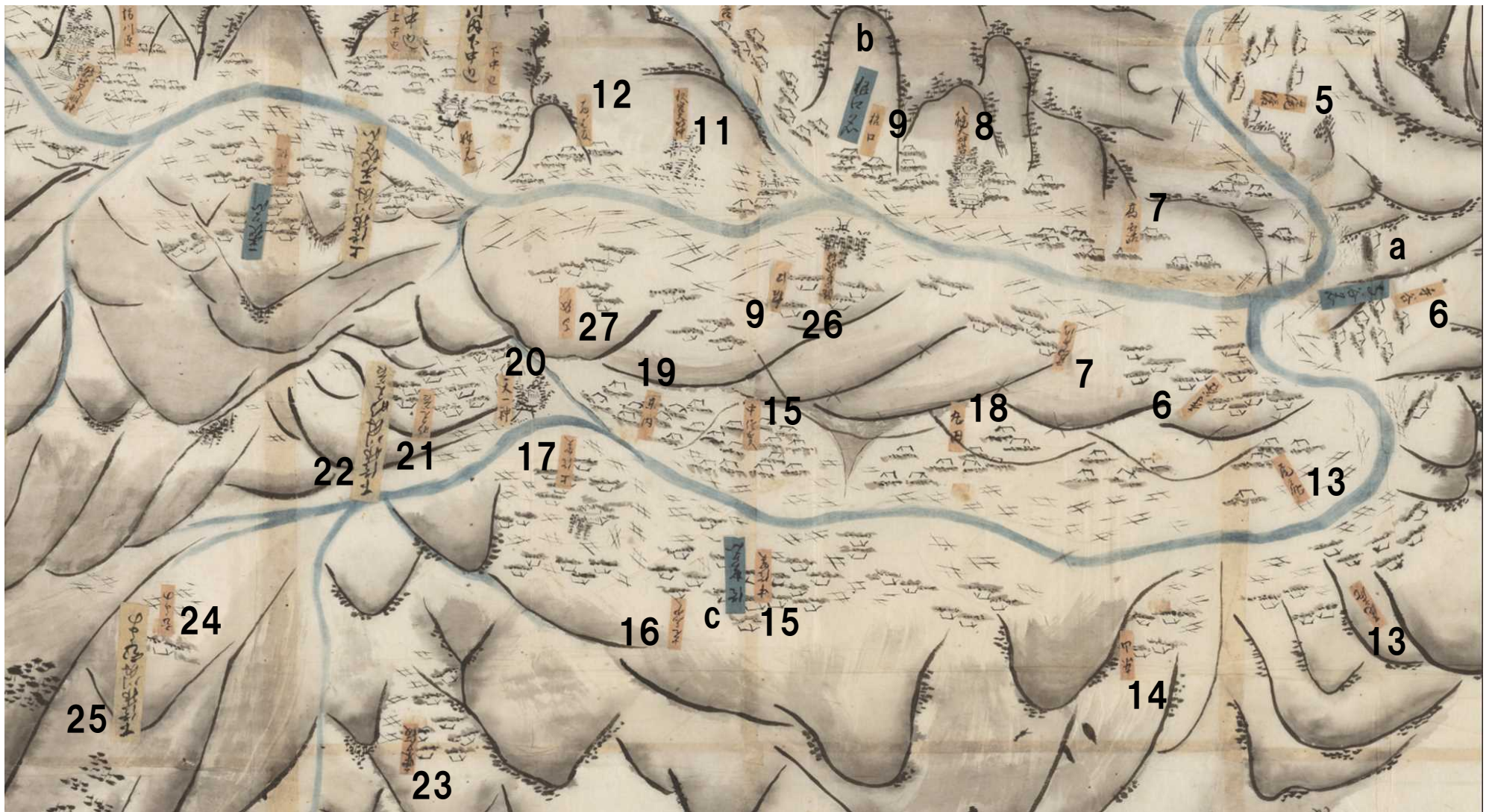


図2_2 「上下佐那川内村絵図」 拡大図B

c 佐賀 (嗟峨) 名 12 西ノはな 13 尾尻 14 東山 15 中佐賀 16 光しやく (光寂)
 17 上佐賀 18 丸田 19 東内 20 天一神 21 明見谷 22 下佐那川内明見谷
 23 栗見坂 24 ひよの 25 下佐那川内ひよの 26 瀧宮大明神 27 馬越
 (a・b・5~11は図2_1を参照)

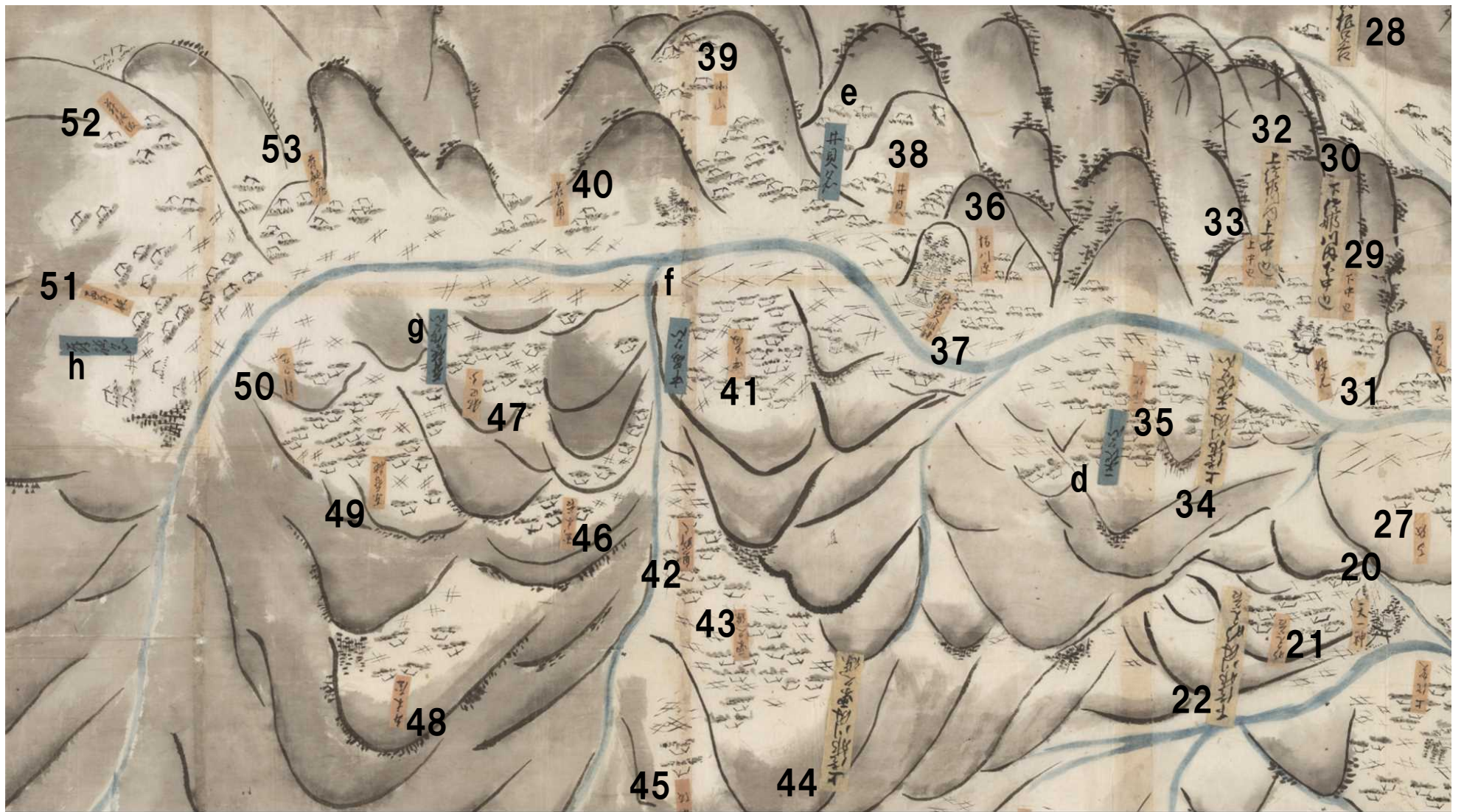


図2_3 「上下佐那川内村絵図」 拡大図C

d 平地名 e 井貝名 f 中畠名 g 府能尻名 h 府能名 28 下佐那河内根郷谷 29 下中辺
 30 下佐那川内下中辺 31 妙見 32 上佐那川内上中辺 33 上中辺 34 上佐那川内平地名
 35 平地 36 坊川原 37 朝宮大明神 38 井貝 39 北山 40 岩角 41 中畠 42 奥野々 43
 栗久保 44 上佐那川内栗久保 45 黍坂 46 玉ノ木谷 47 秋四郎 (秋城) 48 牛木屋 49
 東府能 50 引か丸 51 西府能 52 府能坂 53 府能尻 (20~22・27は図2_2を参照)

江戸幕府による国絵図・日本総図編纂事業

豊臣秀吉

天正19年(1591)太閤検地+御前帳・郡図の調進命令

慶長国絵図
(初代:家康)

慶長9年(1604)調進命令
西日本10数ヶ国分が確認できる

- 命令後、数年以内に提出
- 下図を幕府が事前チェック
- 幕府が日本総図を作成

寛永国絵図
(3代:家光)

寛永10年(1633)幕府巡見使に提出 縮小図「日本六十余州図」
寛永10年・15年頃に2種の「寛永日本図」を編集

正保国絵図
(3代:家光)

正保1年(1644)調進命令 郷帳・城絵図とセットで幕府に提出
焼失、寛文期(1661~73)に再提出
慶安4年・寛文10年頃に2種の「正保日本図」を編集

〔寛文以前の国絵図を「古図」、元禄以降の国絵図を「新図」と区分〕
※絵図(見取図)の仕立て様式や精度なども次第に改善・統一

元禄国絵図
(5代:綱吉)

元禄10年(1697)調進命令、国境縁絵図なども追加調進
元禄15年(1702)「元禄日本図」を完成 → 不出来
享保2年(1717)に8代:吉宗が元禄日本図の改訂事業に着手
享保13年(1728)に算学者の建部賢弘が「享保日本図」を完成

享保日本図編集過程で作成された元禄国絵図の縮小図を徳島大学附属図書館が所蔵

天保国絵図
(13代:家齊)

天保2年(1831)諸藩に実高調査の命令「天保郷帳」
天保9年(1838)諸藩より提出された懸紙修正図をもとに
幕府が国絵図作成、日本総図は作成せず(伊能図あり)

近世前期の阿波国絵図(控図) 6種7鋪



A a 慶長国絵図
[1605(慶長10)年頃]
原寸 211×185cm



A b 慶長国絵図
[1605(慶長10)年頃]
原寸 224×173cm



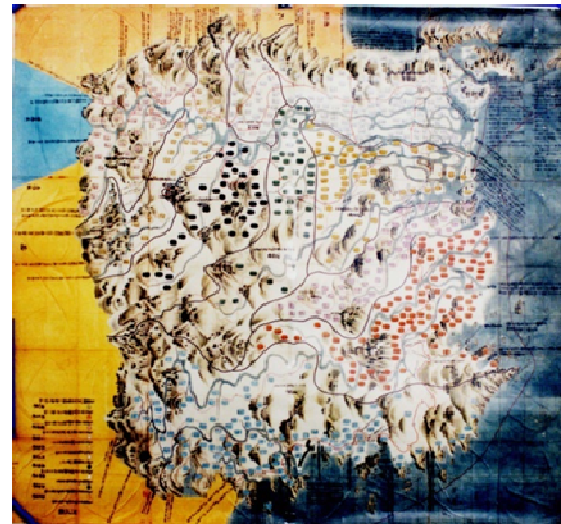
B 寛永前期国絵図
[1633(寛永10)年頃]
原寸 275×200cm



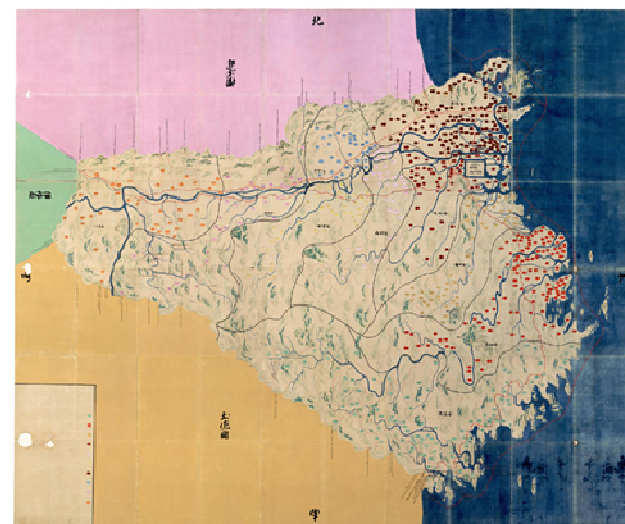
C 寛永後期国絵図
[1641(寛永18)年頃]
原寸 263×283cm



D 正保国絵図(下図)
[1646(正保3)年頃]
原寸 402×355cm



E 寛文国絵図
[1665(寛文5)年頃]
原寸 262×279cm

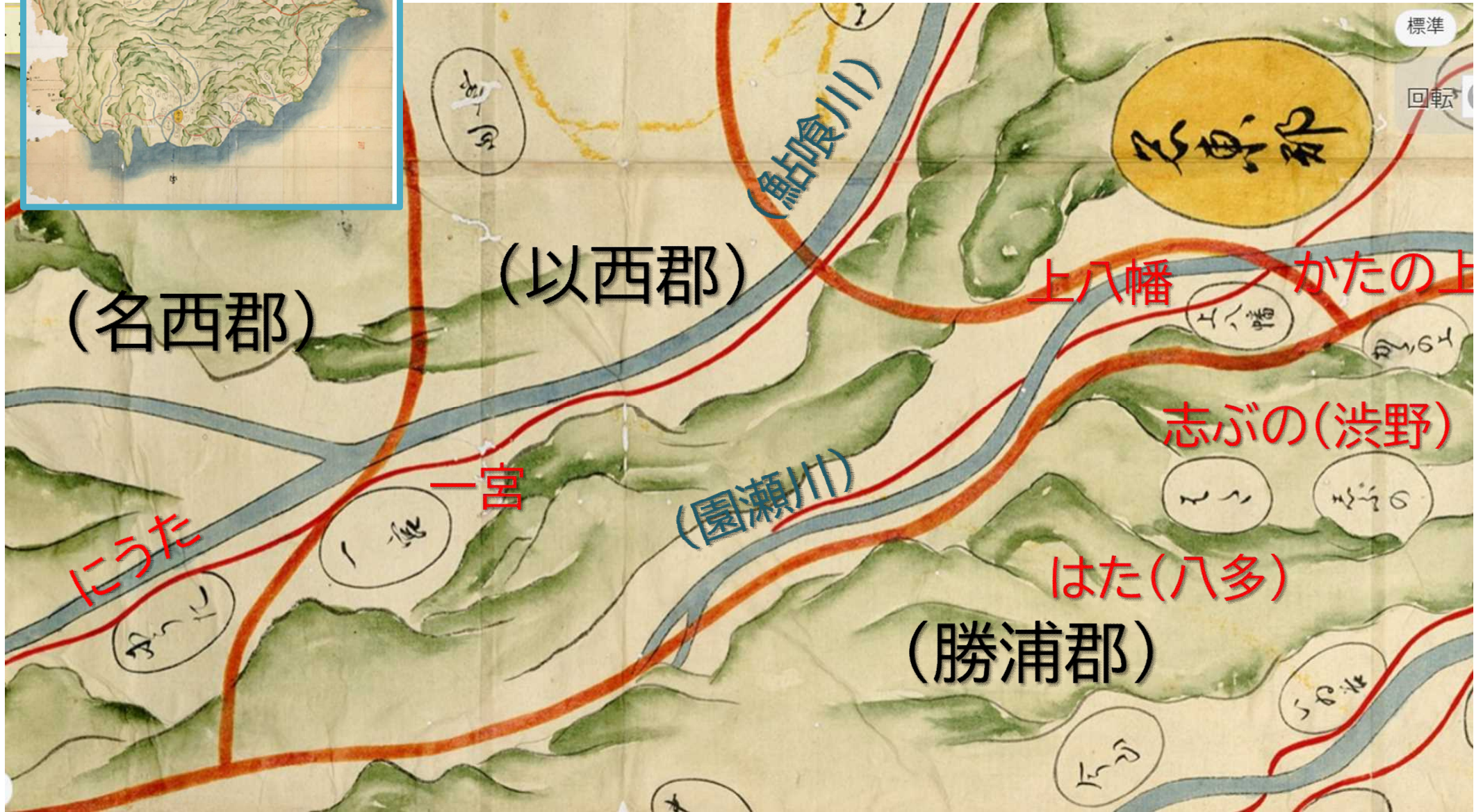


F 元禄国絵図
[1700(元禄13)年頃]
原寸 425×504cm

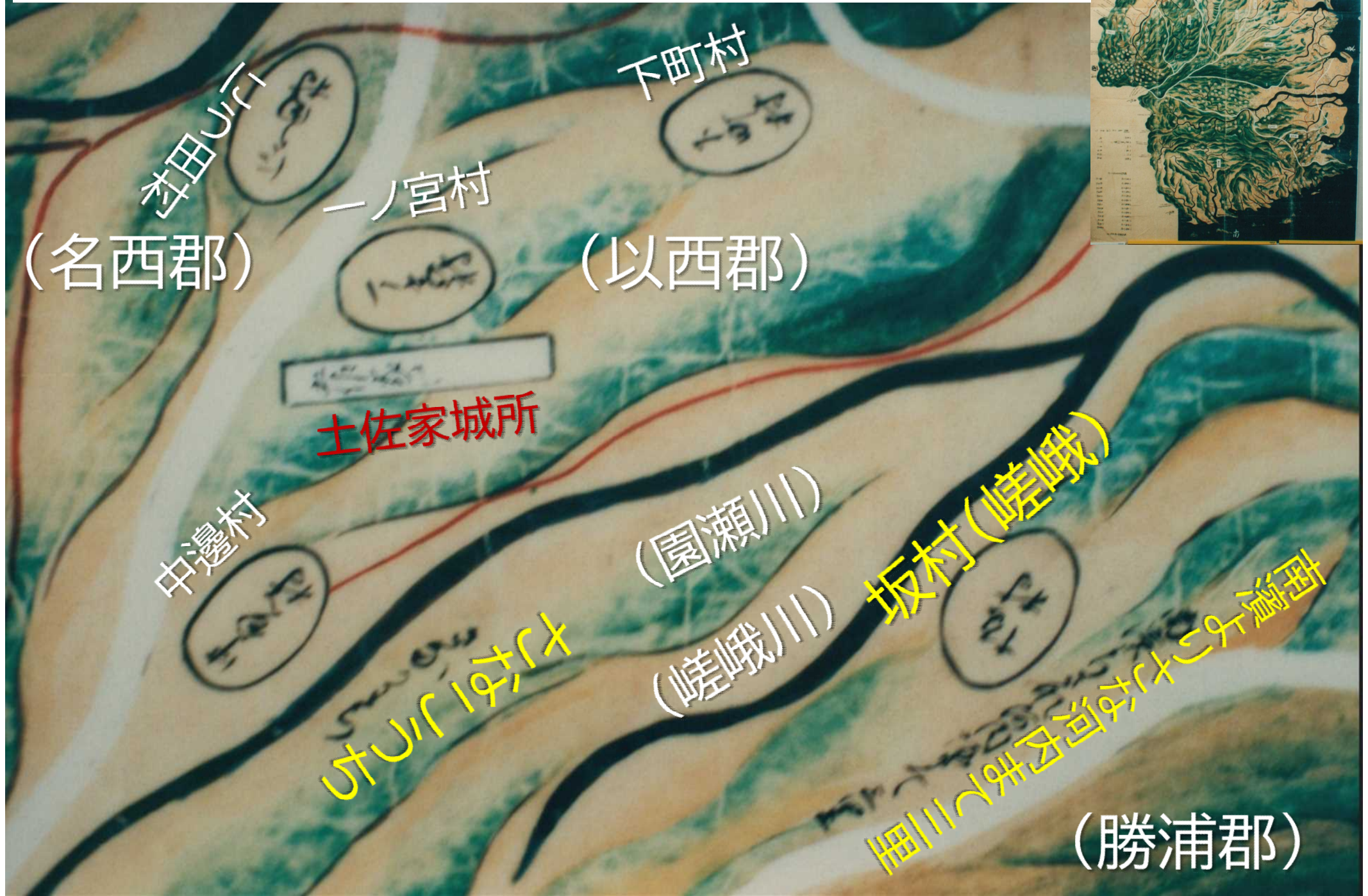
作成年紀があるのは
D図のみ

慶長国絵図にみる佐那河内
慶長10年(1605)頃
記載なし(園瀬川上流)

以西郡
鎌倉時代~寛文4
年(1664)
名東郡から分離・
併合



寛永前期国絵図にみる佐那河内 寛永10年(1633)頃
村形記号「坂村」(嵯峨) 記号など「さなこうち」



田原

(名西郡)

一ノ宮村

(以西郡)

下町村

土佐家城所

中邊村

(園瀬川)

(嵯峨川)

坂村(嵯峨)

さなこうち

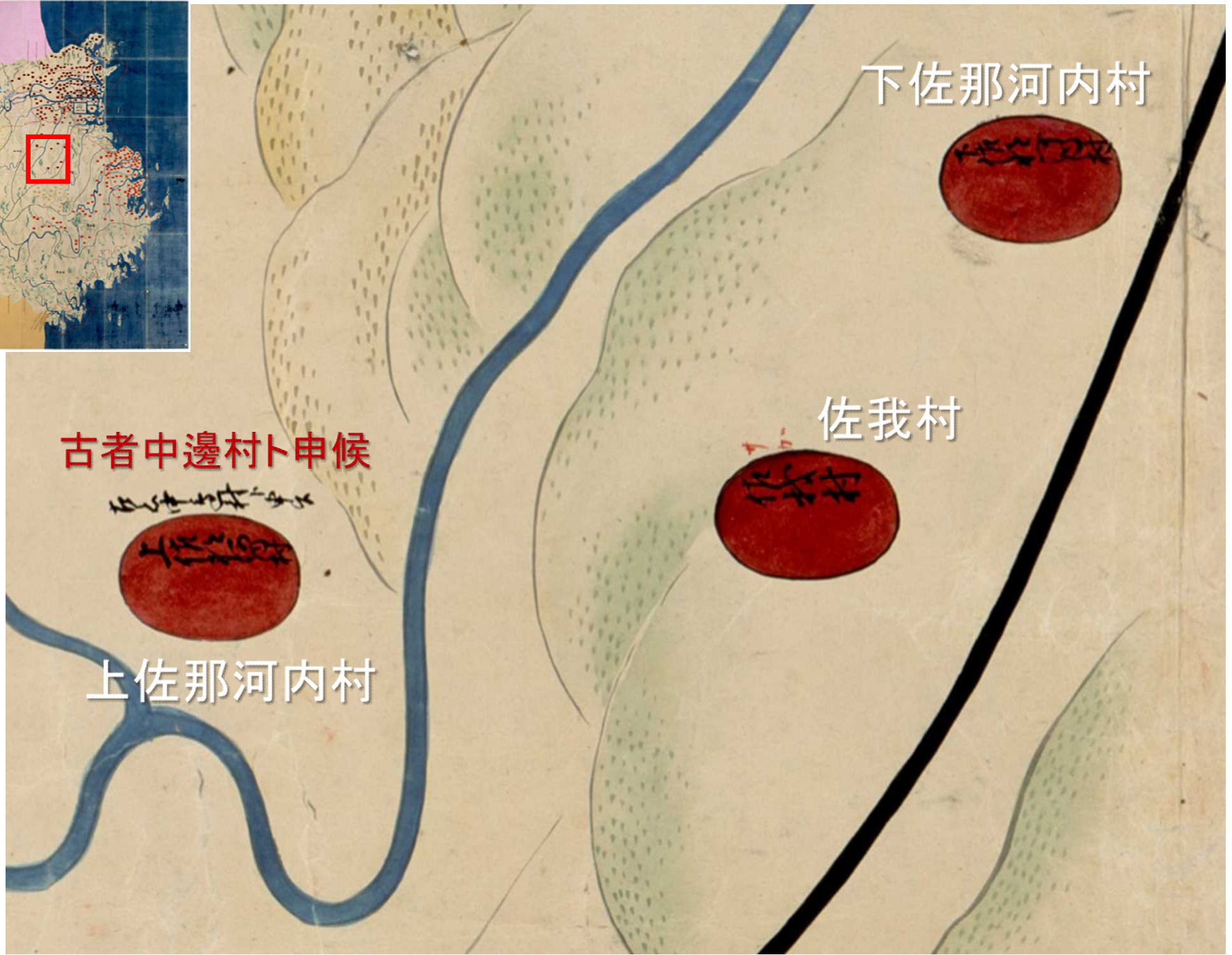
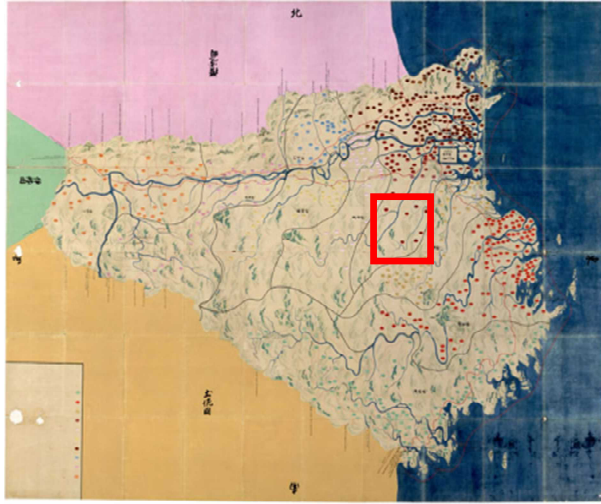
さなこうち

(勝浦郡)

寛永後期国絵図にみる佐那河内 寛永18年(1641)頃
村形記号「佐那河内村」・「佐我村」(嗟峨)・「中邊村」



元禄国絵図にみる佐那河内 寛永18年(1641)頃
村形記号「下佐那河内村」・「佐我村」(嵯峨)・「上佐那河内村」



阿波国大絵図 藩用国絵図

433.0 × 560.5cm 18世紀後半 個人蔵



徳島城博物館図録 第3集
(根津寿夫・平井松午編集)
『阿波・淡路国絵図の世界』2007年

「村」と「名」



「村」＝「藩政村(藩制村)」
江戸時代における年貢・
諸役の行政単位
庄屋(肝煎)・組頭(年寄)・
百姓代の村方三役
検地と「村切り」

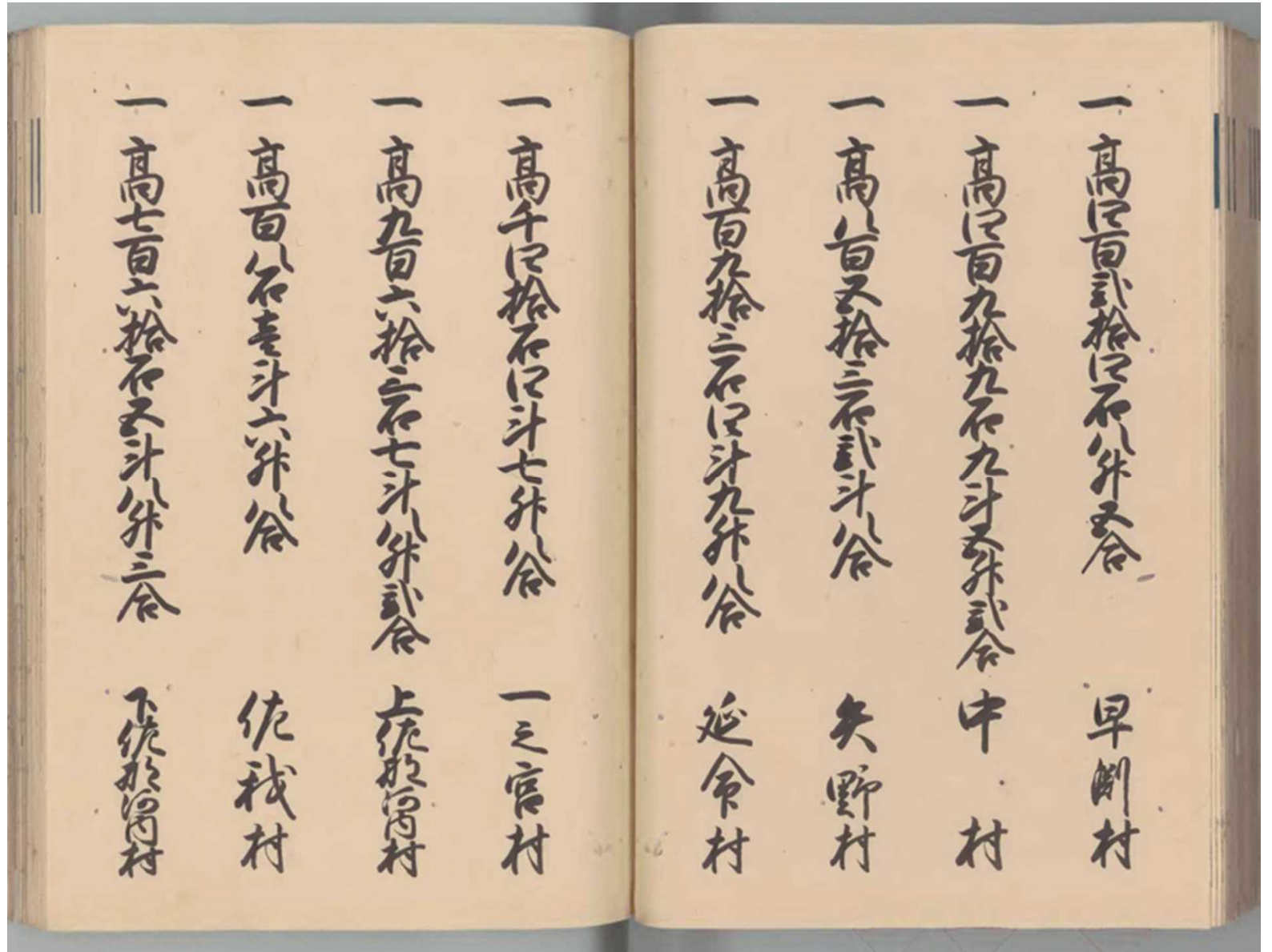
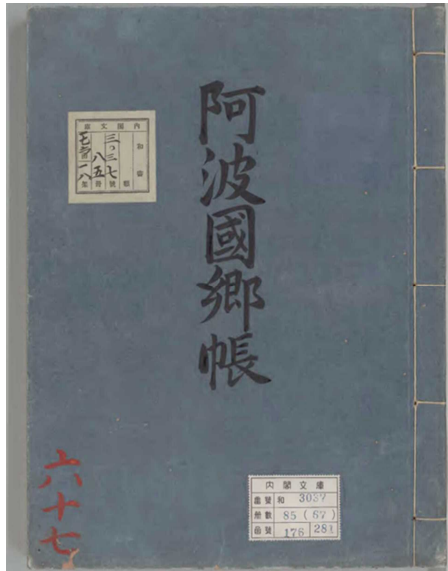
「名」＝中世的や行政単位
阿波国では山間部に多く、
「村」を構成する単位。佐
那河内村の場合には、
「村」—「名」—「常会」(集
落)カ

阿波国大絵図

藩用国絵図

拡大





『天保郷帳』国立公文書館デジタルアーカイブ「国絵図等」



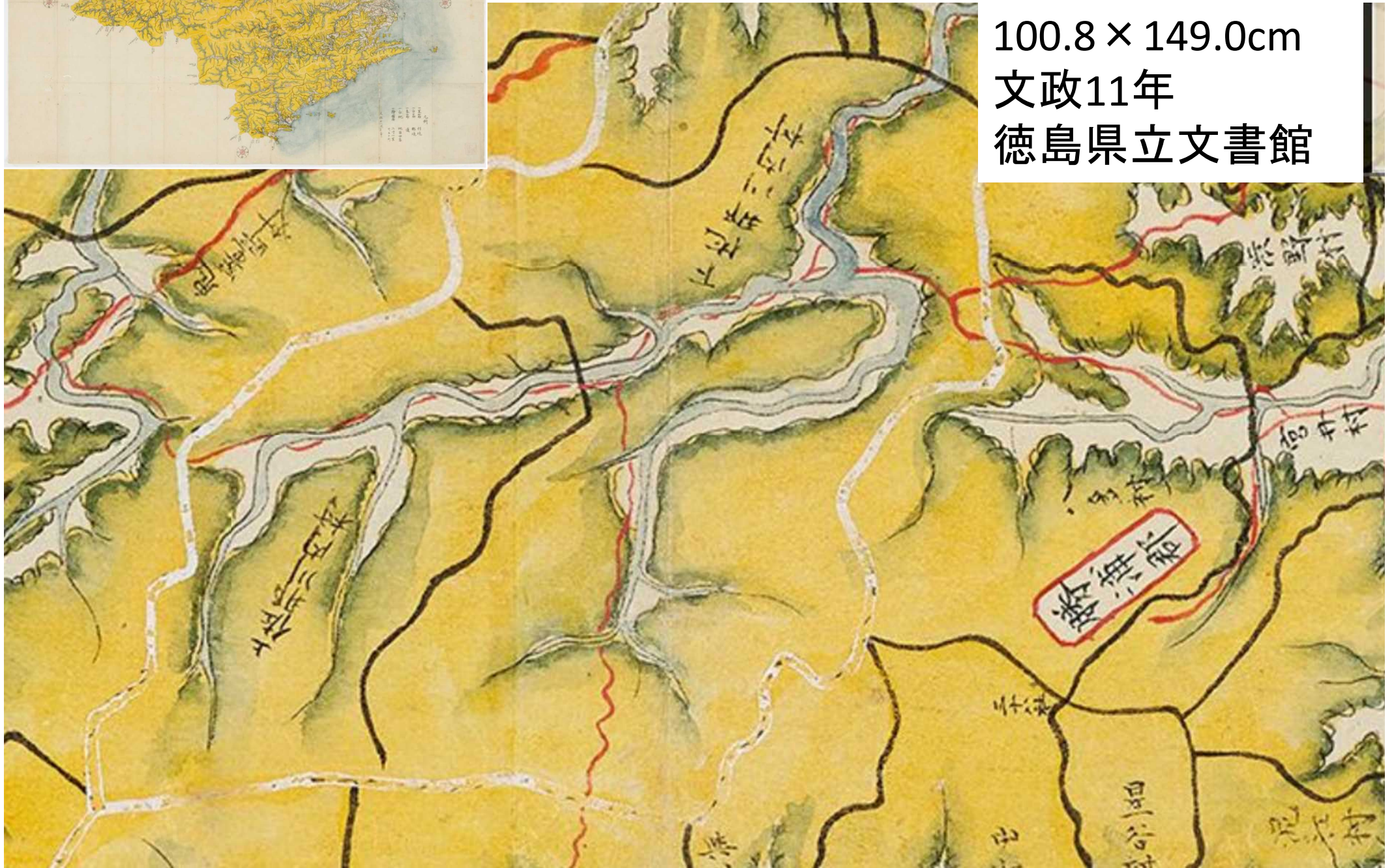
mp000030-200040

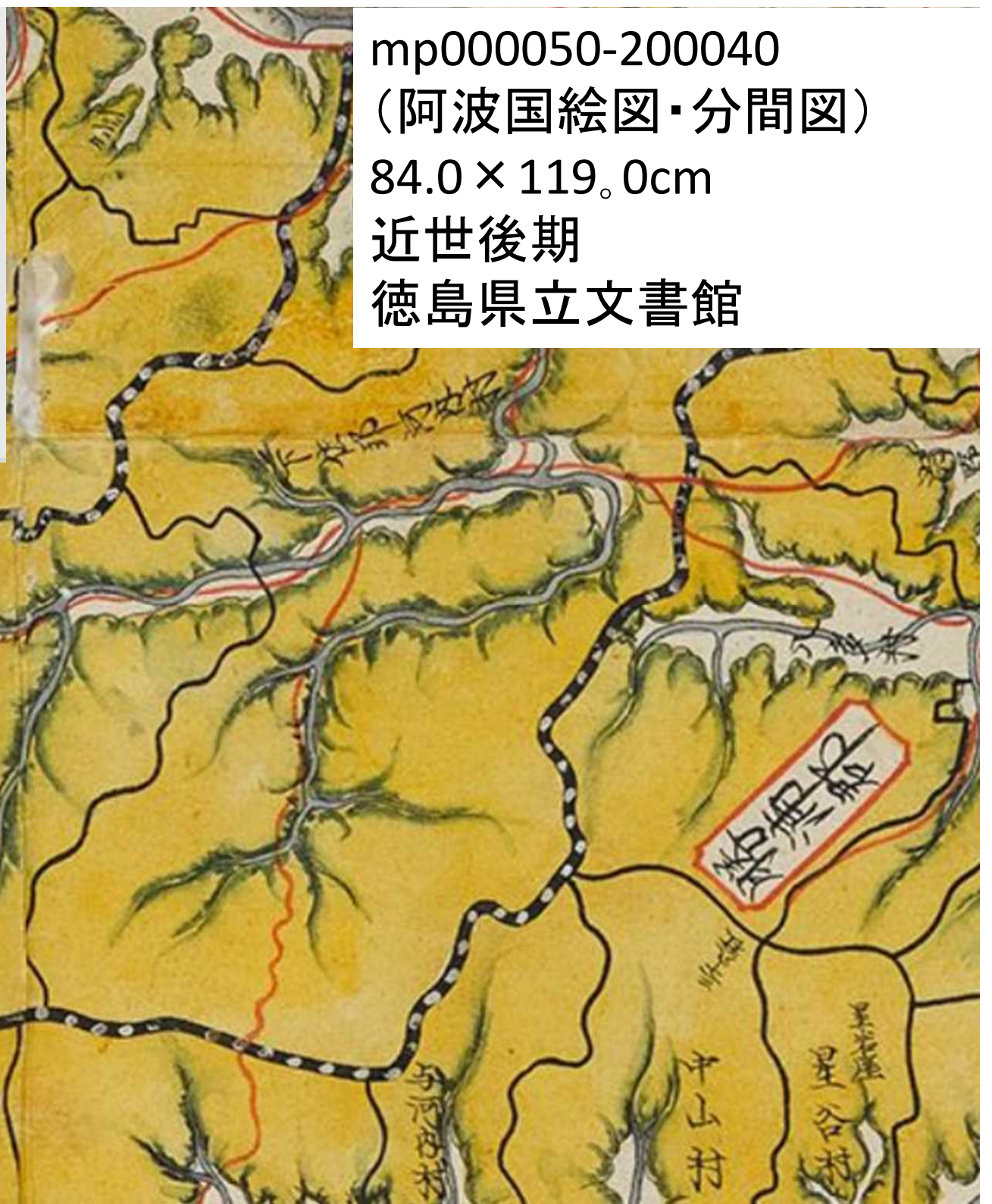
阿波国図

100.8 × 149.0cm

文政11年

徳島県立文書館





mp000050-200040

(阿波国絵図・分間図)

84.0 × 119.0cm

近世後期

徳島県立文書館



mp000010-200040
阿波国大絵図
148.6 × 229.0cm
(近世後期)
徳島県立文書館



mp000390-200010

阿波国全図

180 × 250cm

明治3年

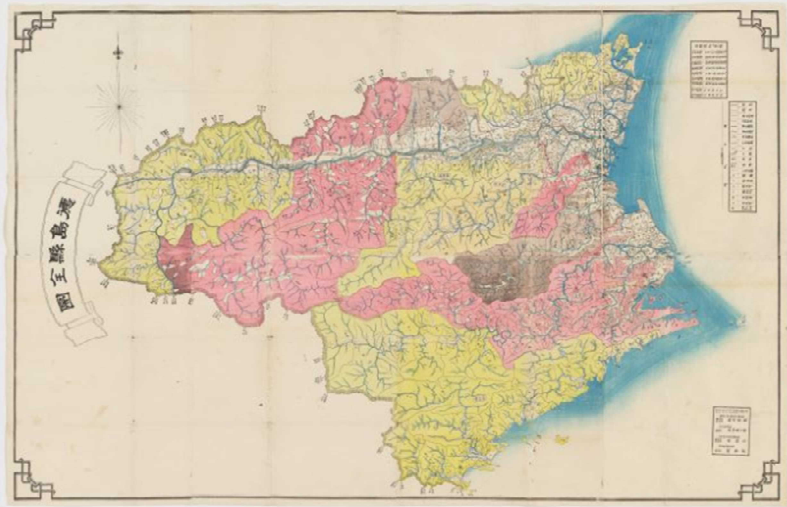
徳島県立図書館

森文庫

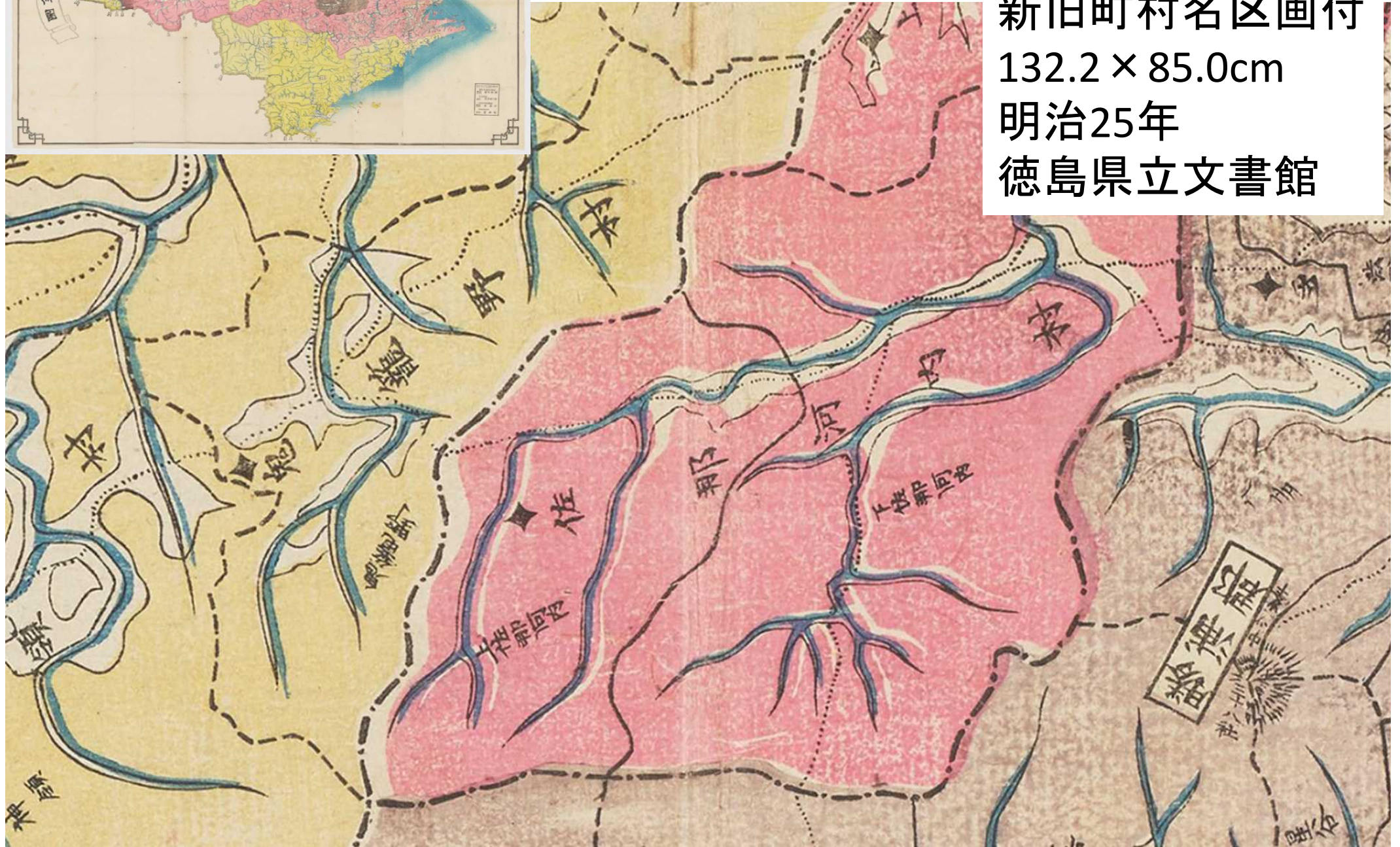
上佐那河内村
上佐那河内村

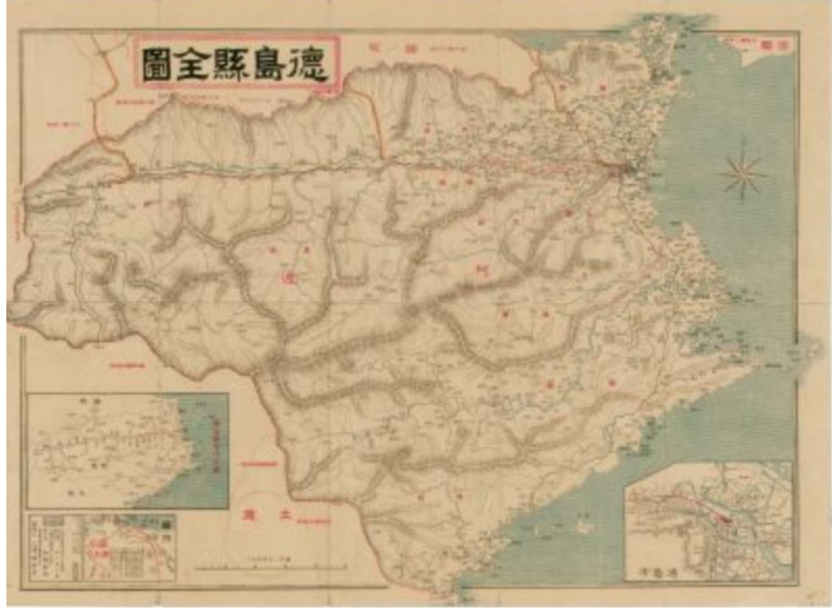
下佐那河内村
下佐那河内村





mp000980-200040
徳島県明細全図
新旧町村名区画付
132.2 × 85.0cm
明治25年
徳島県立文書館





mp000490-200010

徳島県全図

40 × 55cm

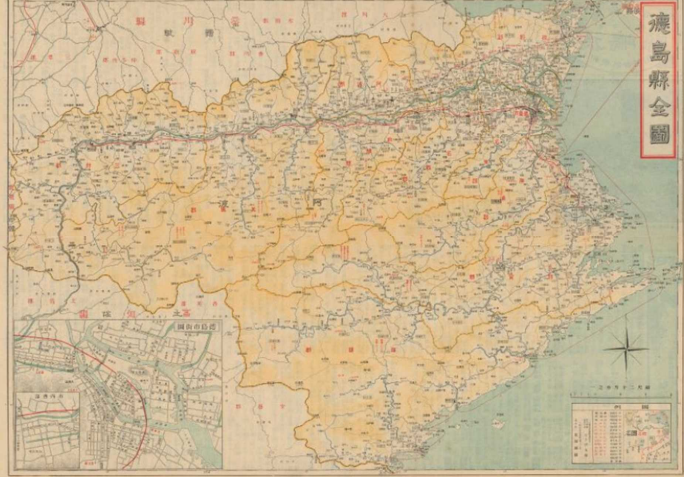
明治45年・大正2年

日下伊兵衛 / 編

和楽路屋 金5銭

徳島県立図書館





mp000350-200040
帝国府県地図
最新実測 徳島県
39.2 × 54.8cm
1928/05/15
和楽路屋
徳島県立文書館





Mp000360-200040
日本府県管内地図
徳島県
39.6 × 54.7cm
1928/08/05
駿々堂
徳島県立文書館



Mp000380-200040
徳島県管内全図
79.6 × 109.9cm
昭和9年3月
徳島県土木課
徳島県立文書館





mp000400-200040

徳島県地形図

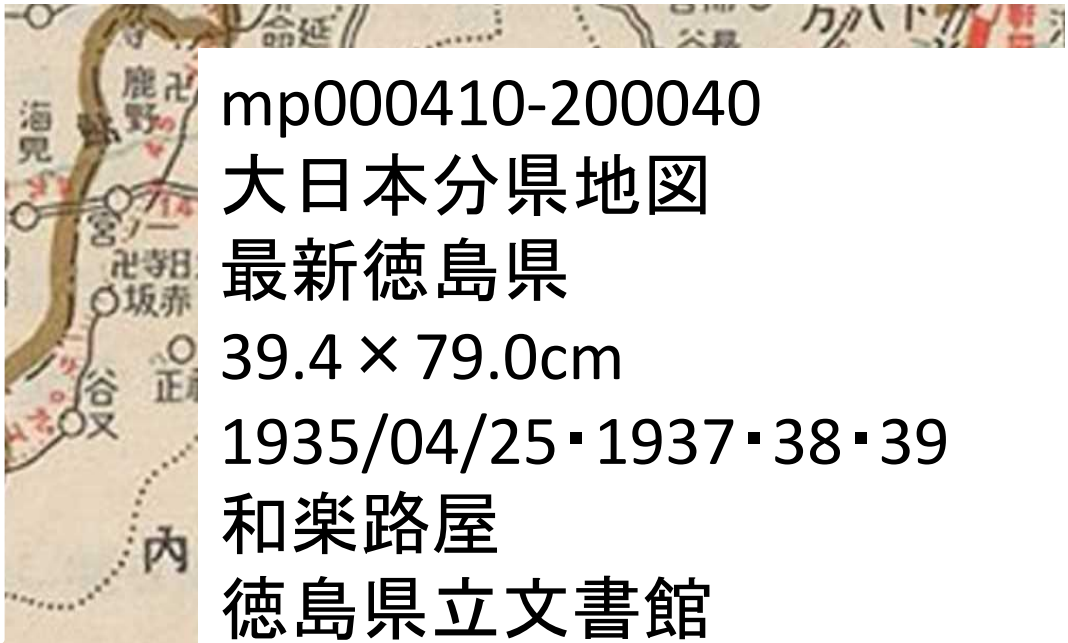
39.4 × 55.0cm

1935/01/01・1948

佐藤郷土地図研究所

徳島県立文書館





mp000410-200040
大日本分県地図
最新徳島県
39.4 × 79.0cm
1935/04/25・1937・38・39
和楽路屋
徳島県立文書館





mp000460-200040

徳島県

日本新分県地図

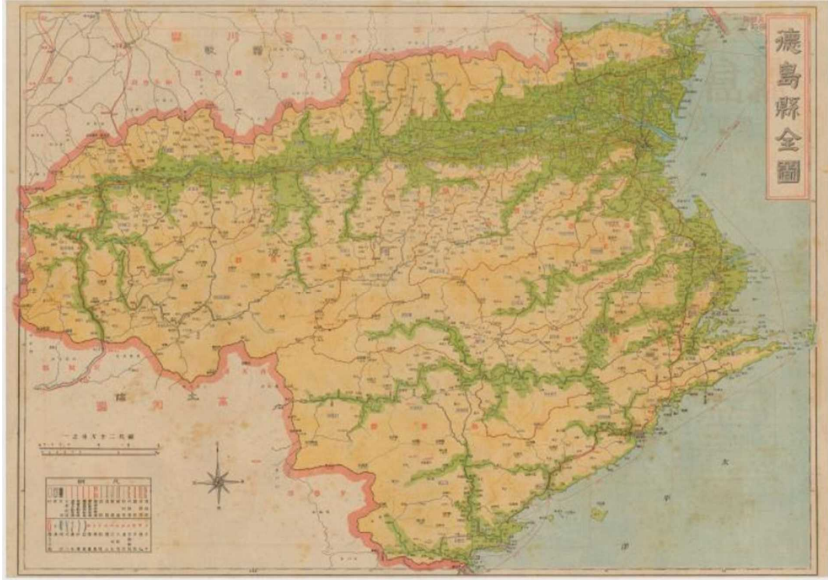
37.0 × 51.3cm

1941/10/30

日本統制地図株式会社

徳島県立文書館

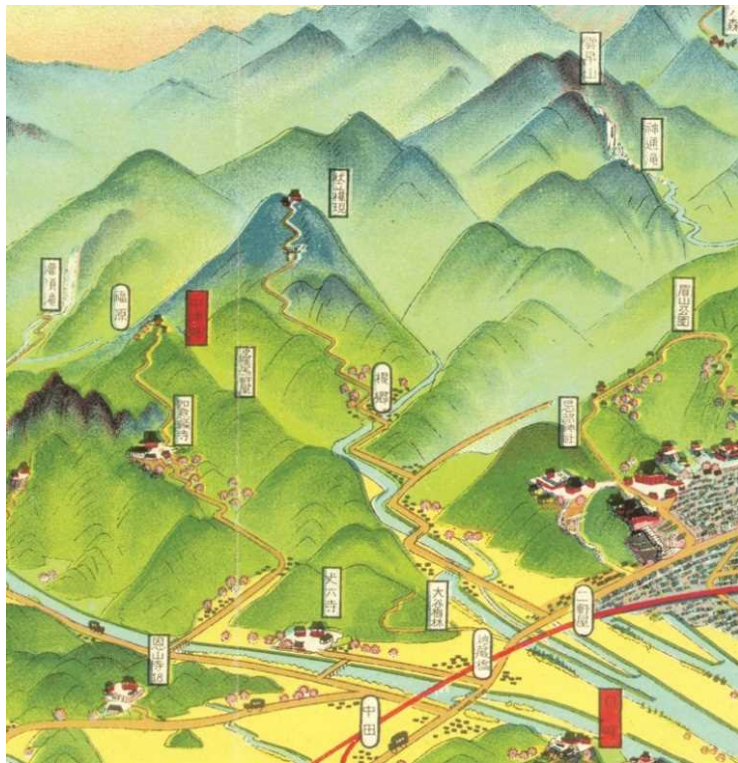




mp000480-200040
日本新分県地図
徳島県
38.0 × 53.9cm
1946/06/05・1948
日本地図株式会社
徳島県立文書館



吉田初三郎の鳥瞰図





ご清聴ありがとうございました